

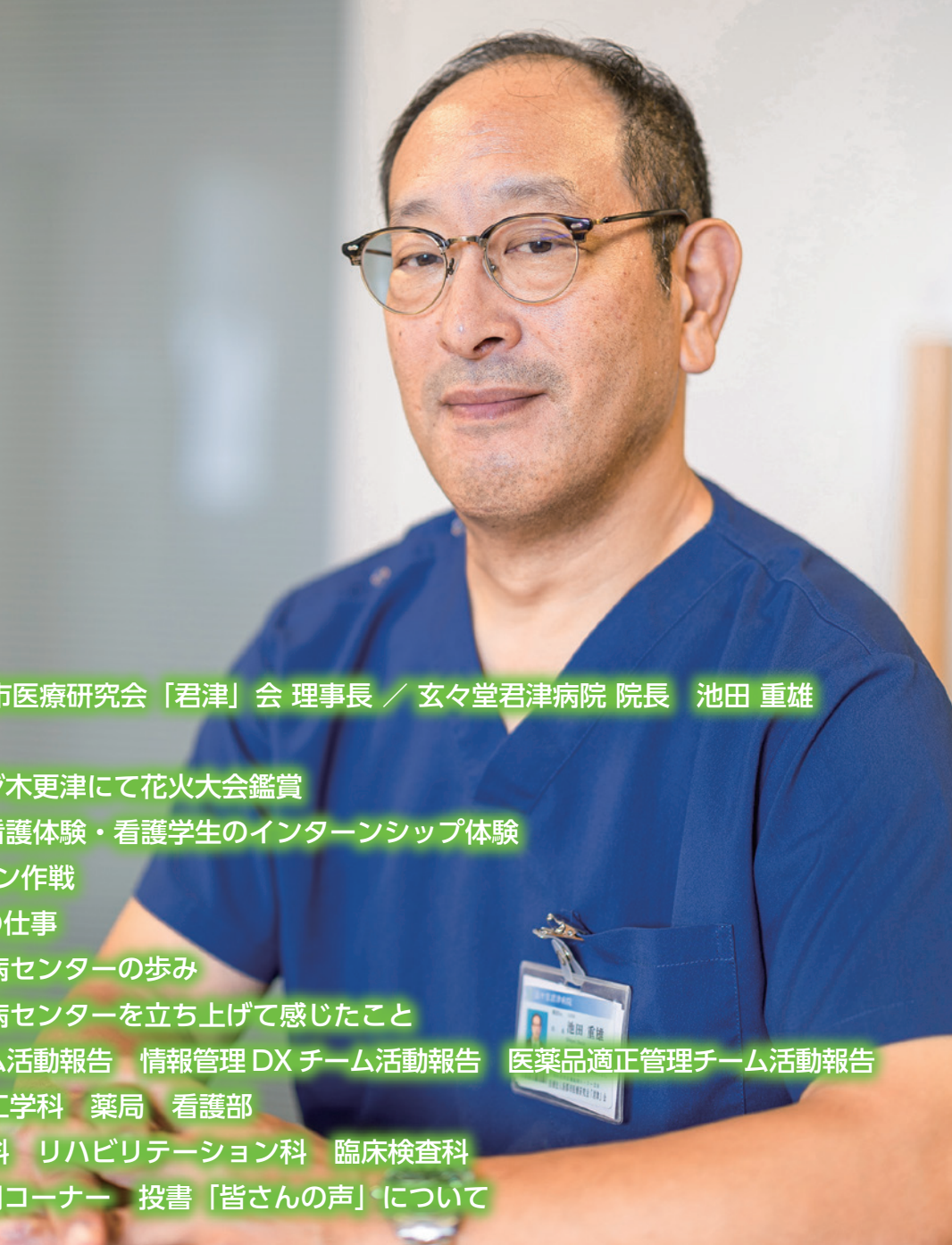


玄々堂グループ広報誌 - あたたかい医療をみんなの手で -

げんげんどう

100号記念 2024.10 No. 100

特集 総合腎臓病センターの歩み

- 
- ① 医療法人社団 新都市医療研究会「君津」会 理事長 / 玄々堂君津病院 院長 池田 重雄
 - ② 新任医師の紹介
ウェル・ヴィレッジ木更津にて花火大会鑑賞
高校生のふれあい看護体験・看護学生のインターンシップ体験
CS 委員会 クリーン作戦
 - ③ 職種紹介：薬剤師の仕事
 - ④ ⑤ 特集 総合腎臓病センターの歩み
総合腎臓病センターを立ち上げて感じたこと
RRT チーム活動報告 情報管理 DX チーム活動報告 医薬品適正管理チーム活動報告
 - ⑥ 100 号記念 臨床工学科 薬局 看護部
 - ⑦ 100 号記念 栄養科 リハビリテーション科 臨床検査科
 - ⑧ 患者さんからの質問コーナー 投書「皆さんの声」について

ウェル・ヴィレッジ木更津にて花火大会鑑賞

ウェル・ヴィレッジ木更津施設長 佐藤年成

8月15日、心配していた台風7号は日本海に抜け、当施設では「日常とは異なる環境でご入居者と職員が交流し、コミュニケーションの深耕を図る」というコンセプトのもと、木更津花火大会観賞イベントを開催しました。美しい夏の夜空を背景に、ご入居者・ご家族と職員が4階のリハビリルームで一緒に花火を楽しみ、笑顔と歓声があふれる時間を過ごしました。特に、空

高く打ち上げられたフィナーレの花火が好評で、皆様に特別な思い出を提供できたと感じています。安全面には細心の注意を払い、スタッフ全員でサポートにあたり、無事にイベントを終了することができました。今回の花火大会を通じて、普段以上にご入居者同士や職員との交流が活発に行われ、コミュニケーションが一層深まったことが成果として感じられました。

来年は、今回の経験とノウハウを活かし、更に充実した内容で開催できるよう努めていきます。



4階リハビリルームで花火大会鑑賞

高校生のふれあい看護体験・看護学生のインターンシップ体験

副看護部長 鳥飼 紀子

た。

当院では「ふれあい看護体験」の企画の中で、他の医療職に興味のある学生さんにも現場見学や説明の機会を設けていますので、お申し込み時にご相談ください。

また、インターンシップでは、看護学生が就職先の選択肢として当院の看護業



男子学生も多数参加しました

※看護協会のホームページ・当院のホームページでご案内いたします。(次回は3月頃の予定)



CS委員会 クリーン作戦

放射線科 科長 関根 明

『笹の葉さ～らさら～♪』。七夕に当たる7月7日(日)、クリーン作戦として病院周囲の清掃活動を実施いたしました。当院に来院される患者さんの満足度向上を目的として、接遇や環境整備等改善のための活動をCS委員会が企画し、有志(職員とその家族)によって患者さん駐車場を中心に清掃活動を行いました。本委員会の発足から30年が経ち、例年の恒例行事として位置づけられているクリーン作戦ではありますが、ここ数年はコロナ禍や天候等の関係にて滞っていた現状がございます。病院周囲や患者さん駐車場は、安全かつ気持ちよくご利用いただくために日頃から適正な管理を心掛けておりますが、今回の活動でさらに快適に安心して当院をご利用いただけることに繋がったと思います。まさに本委員会が指針として掲げている「思いやり・安心・信頼のサービス提供」に向けた活動となりました。



クリーン作戦の様子

新任医師の紹介

8月1日付で当院に着任しました泌尿器科部長の高野 哲三医師を紹介致します。

泌尿器科部長
たかの てつぞう
高野 哲三



出身地：東京

資格：日本泌尿器科学会専門医

趣味：釣り

卒業：H9年 横浜市立大学医学部卒業
ひと言：卒業してから神奈川県で働いておりましたが、ご縁があつて玄々堂君津病院で勤務させて頂くことになりましたのでよろしくお願いします。

職種紹介 薬剤師の仕事

薬局長 松井 和之

お薬の管理できていますか ～おくすり手帳を活用しましょう～

長寿社会のいま、長生きするならいつまでも元気でいたいものですね。とはいえ、高齢者には持病などのために、日常的になんらかの薬を飲んでいる人は多いものです。複数の疾患を抱えていることから、同時に複数の薬を処方されている人も少なくありません。

毎日を不安なく暮らしていくには、体調や病気をうまくコントロールすることが大切です。

そのための薬ですが、最近では、たくさんの薬を飲む「多剤服用」によって起こる健康トラブルが注目されています。高齢者は多剤服用によって深刻な副作用が起きやすく、認知症や寝たきりにもつながる可能性があることがわかってきたのです。



多剤服用によって有害な作用が起きることを ポリファーマシーといいます

他の世代に比べて、高齢者には薬の副作用が出やすいといわれています。

たくさんの薬を飲んでいることも原因の一つですが、生理機能や代謝機能の衰えが原因で、若い人とは薬物動態が異なることが影響しています。また薬が多いことによる飲み間違い、飲み忘れなども起きやすくなりますが、これもポリファーマシーに含まれます。

ポリファーマシーへの対策ですが、あくまでも多剤を併用することで

多剤服用の確認をしています

何かしらの不利益が生じている場合、もしくは生じる可能性がある場合に取組む必要があります。たとえば複数の薬剤を併用していても、それが医療上適正な使用であり、安全性が確認できるものであれば問題はありません。そのため自分の判断で必要かもしれない薬を止めるのは大変危険なのでやめましょう。

やめてもいい薬や本当に必要な薬については、専門家による見きわめが

欠かせません。
薬について何か疑問があれば、必ずかかりつけの医師や薬剤師に相談してください。

また気をつけたいのが、市販薬とサプリメント、健康食品も忘れてはいけないということです。サプリメントは健康食品に含まれるため、あくまでも「食品」扱いであり、体への効き目は薬のように強くないのですが、体調に影響する何らかの成分が含まれています。

そのためサプリメントや健康食品を飲みすぎたり、薬と併用することで、思いがけず健康トラブルを招くことがあるのです。

薬の副作用を防ぐには、サプリメントや健康食品も含め自分が飲んでいる薬を自分で把握して、かかりつけの医師や薬剤師に伝えることが重要です。

そこで、ぜひ活用したいのが「おくすり手帳」です。複数の医療機関に受診している場合でも、すべての履歴を1つのおくすり手帳に記録することで管理ができます。お持ちでない場合は、かかりつけ薬局に相談してみてください。



総合腎臓病センターを立ち上げて感じたこと

医療法人社団 新都市医療研究会「君津」会 総合腎臓病センター長

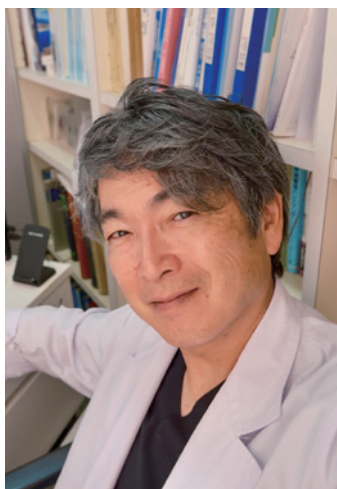
玄々堂じんクリニック院長／玄々堂君津病院副院長

大崎 慎一

昔むかし私がこの病院に入職して数年たった頃、あることに疑問を感じるようになりました。それはこの病院のスタッフやコメディカルはまじめで優秀なのに、公に自分の意見を言うことはなく、素直に上からの指示に従って働くということです。

その何が悪いの？と思われたかもしれませんが。確かに悪いことではありません。もしかしたら私自身が他人に言われた通りにやるのが苦手な人間だから、そう思っただけかもしれません。しかし当時、病院の活動の多くはトップダウンで全て決まり、現場のスタッフ発信のボトムアップ的な改革を検討する動きはありませんでした。陰では素晴らしい発想のコメディカルの意見はあっても、それを活かさない組織が私には残念に思えたのです。

その後、ありがたいことに私は法人の理事に就任し、腎臓領域の責任者に任命されました。すでに玄々堂君津病院の透析治療は技術的にも県内トップクラスで、腎移植の成功もありました。しかし、これから先の未来を見据えたとき、もっと包括的な腎臓病診療が必要だと感じました。高齢化社会を考えれば、ただ現状に甘んじていてはダメだと。新しいシステム、多職種が協力し合い、主体的に動ける環境が絶対に必要だと思ったのです。



そこで思いついたのが「総合腎臓病センター」でした。10人程度の多職種チームをテーマごとに組織し、それぞれが自発的に活動し、病院に新しい提案をするモデルです。ここでは、役職や年齢に関係なく、対等に意見を出し合うことが大事。お互いを尊重しながら、シェアードリーダーシップで運営する。それが私の目指す理想の姿でした。現場からの意見をしっかりと受け止め、組織全体の成長と、スタッフ一人ひとりの自己実現をサポートする場を作りたいかったです。

2010年、この思いを形にするため、当時の池田理事長や永島院長のご賛同をいただき、ついに総合腎臓病センターがスタートしました。

それから十数年が経ちました。私の髪にも白髪が増え、年月の重みを感じます。当時の会議を振り返ると、「自分たちで考えてアイデアを出せなんて無理です」と年配の部長さんに言われたことが、今となっては懐かしい思い出です。

でも、どうでしょう？今ではスタッフたちが自発的に様々な新しい取り組みをしてくれています。腹膜透析や腎移植、在宅透析の導入、腎臓リハビリやフットケアの拡充、そして患者教育やデータ管理、さらには薬剤管理やアクセス管理システムの構築など、多くの取り組みが患者さんに還元されています。

特に最近では動画や映像、SNSを使うなどDX化が進行して、一般の皆さんのスマートフォンからでも総合腎臓病センターのコンテンツを学習できるようになってきました。

総合腎臓病センターは、病院やクリニックの垣根を超え、職種を超えて連携を強める組織となりました。それが患者さんにとっても、医療チームにとっても素晴らしい成果を生み出しているんです。そして、ここ数年、国の健康保険制度でも多職種チーム医療が評価されるようになりました。私たちの取り組みが、時代を少し先取りしていたのかもしれないね。

2024年10月。気がつけば、私はほぼ最年長者となり、こうして思い出話を語る立場になってしまいました。でも、若いスタッフたちは次々にチームに参加し、新しい提案をし続けています。若い皆さんには、もっと自由に意見を言い、どんどん新しいアイデアを形にしていってほしいと思います。チーム内では役職や職種の壁なんて気にしないでください。皆さんの活動が患者さんを救い、そして自分自身の成長にもつながるはずです。

私は、そんな未来に向かって頑張る若者たちが大好きです。これからも、陰ながら皆さんを応援し続けます。



総合腎臓病センターメンバー：左から山口課長、宮本事務長、佐野師長、砂川師長、服部師長、木村看護部長、大崎センター長、松井薬局長、刈込科長、山口科長、三浦顧問

RRTチーム活動報告

臨床工学科 副技士長 高橋 初

当院は、腎代替療法(RRT)である血液透析、腹膜透析、腎移植、在宅血液透析が選択できる、全国的にも珍しい施設です。しかし、これまで各治療法にチーム活動を行ってきたものの、全体を包括するチームは存在しませんでした。そこでRRT指導を目的としたRRTチームを発足しました。

RRTチームは、腎代替療法指導に必要な腎機能に応じた資料を統一して作成しました。これにより、これまで取り扱う部署により異なっていた資料を一本化し、

情報の一貫性を図っています。また、当院の治療の流れがわかるように動画も作成し、患者さんやスタッフが容易に理解できるよう工夫しています。

さらに、各資料のリンクを1か所にまとめ、QRコードから簡単に閲覧できるシステムも導入しました。

10月には「慢性腎臓病セミナー」を開催し、患者さんや医療従事者に情報提供の機会を設けています。これらの活動を通じて、患者さんが最適な治療を選択できるよう支援しています。

慢性腎臓病の治療について、是非ご覧ください



情報管理DXチーム活動報告

臨床工学科 副技士長 藤平 雅紀



DXチームは施設見学にも対応しています

当院では2011年に電子カルテシステムを導入してから13年が経過し、様々な情報のデジタル化が進みました。情報管理DXチームはコンピュータのIT(情報技術)を活用し、仕事のしやすい環境づくりや業務支援システムの開発に取り組んでいます。「こんなことパソコンで出来たら便利だな」といった声を実現するのが主な活動です。

チーム名にDXとありますが、デジタルトランスフォーメーション(Digital Transformation)の略で

す。「DT」ではなく「DX」と表記されるのは、交差するという意味を持つ「trans」を「X」と略することが由来と言われています。DXとは「進化し続けるテクノロジーが人々の生活を豊かにしていくこと」と定義されています。医療でもAI(人工知能)による画像診断、診療支援やIoT(さまざまなモノをインターネットに接続する技術)により遠隔管理・操作が可能になるなど進化しています。今後も安全で質の高い医療の提供ができるようにDX推進に取り組んでまいります。

医薬品適正管理チーム活動報告

薬局 主任 安高 由紀

当チームは医薬品の適正使用を推進するために、腎機能に応じた投与量の啓発、腎関連薬の有効性、副作用、費用対効果などを検証し、当地区の腎医療に貢献することを目的に、2014年5月から活動を開始しました。大崎センター長を中心に、透析担当薬剤師と各透析室の看護師、事務員で月に1回ミーティングを行っています。

新薬の勉強会の開催や薬品の使用基準を作成することで、薬物治療

を安全かつ効果的に行えるよう取り組んでいます。テーマによっては他のチームと連携することもあり、これまでに循環器チームや骨チームなどと協力してきました。

多職種で活動することで自分では気づかない発見もあり、とても良い経験となっています。これからも各職種の強みを生かし、活発に意見交換することでより良い薬物治療が行えるよう、活動していきたいと思っています。



薬剤師と看護師でミーティング

臨床工学科を立ち上げ透析施設を築いてきて、 いま感じること

臨床工学科 透析統括顧問 三浦 國男



当院の透析治療は、1974年の病院開設年に手術室の一角を利用し開始したと伺っています。それ以降、色々な変遷を経ながら50年に渡り地域の拠点病院として役割を担い、現在は県内有数の規模に成長しました。これは地域の皆様の多くのご支援の賜物であり深く感謝申し上げます。

私は1979年に透析専門技士として赴任しましたが、当時、南房総地域には当院と亀田総合病院の二つしかありませんでした。そのため館山方面からの患者さんは1時間以上かけ電車などを利用し通院しなければならず、大変な苦勞を強いられていま

した。治療時間は1回5時間にも及び、治療手技は複雑で用手法のため技量差により透析内容に影響を与えることもありました。その後、めざましい技術革新により透析治療は大きく進化を遂げました。また通院は送迎バスのサービスが普及しかつてのような負担は減少しました。透析治療に携わってきたものとして隔世の感がありますが、とはいえ長期治療による身体的な負担や精神的なストレスは、今なお解決の難しい課題であることに変わりはありません。今後もニーズに合ったより良い治療の提供を目指していきたいと思っています。

病院薬剤師として多職種と連携してきて、 いま感じること

薬局 顧問 杉 春彦



このお話を頂き、35年の当院勤務で多職種と連携？自分としては看護部と「なんやかんや」しながら頑張ってきた感があります。

「なんやかんや？」よく話し合い、時には…もありましたが、今思えば看護部はすごく忙しいのによく、薬のあれこれに付き合ってくれたことにただ感謝あるのみです。

後半、医療安全に関わるようになって多職種連携が非常に大切な要素とされています。

自分と自分以外の人は違う、当たり前のことですが自分を含めそれをきちんと理解していない、そこで「なんやかんや」を活かして他の人を理解し、自分を理解してもらうわけです。

AIや医療DXがいくら進もうと自分自身の言葉は大切だと…思いませんか？

看護部長のバトンタッチで看護をつないできて、 いま感じること

看護部長 木村 純子



私は3代目の看護部長としてバトンを引き継ぎました。

いつも看護師は患者さんのために何ができるかを考えるように学んできて、チョッピリ褒められると天にも昇る気持ちでやりがいに結び付ける職種です。そして、自分を犠牲にして働き続けるという献身的な精神の持ち主が多いのも特徴です。

患者さんやご家族が満足できるようにと家族看護学を学び、明るく、真剣かつ冷静に考えていくことを前任の看護部長からバトンを渡されました。

謙虚にその視点を備えるために、新たに認定看護管理者の道に進み、やっと足元から全体を見渡す視点で俯瞰して捉えることができるようになりました。

さらに、地域の皆様が、健やかに自分らしく生活

ができるために、当院の立ち位置を考え、地域の医療を支えていかなければならないと使命感を持つことができるようにもなりました。

一人ひとりの患者さんや職員としっかり向き合い、「いま」を共有してより良い医療や看護を実現していきたいと思っています。一人では何もできませんが、関係する方々と一緒に悩み、協力して思いやりのある看護が展開できる環境を整えていきたいと考えています。皆様の笑顔が私の原動力です。



どんなことにもくじけない師長たち



栄養科では、「患者さんに美味しく、栄養価値の高い食事を提供する」という理念のもとに給食部門の仕事に取り組んでいます。この思いは、創設当時から変わることなく、我々の病院食に対する考え方の根幹をなすものです。この理念は、なんとなく当たり前のようにも聞こえますが、病院食は、栄養組成を整えた複数のメニューを大量調理するため、徹底した衛生管理が重要で、クリアしなければならない条件が多く、とても再現性が難しい分野と言えます。

近年は、^{えんげそしやく}嚥下咀嚼機能が低下した患者さんが多くなり、その機能にあわせた食形態の献立作成能力が求められてきています。

このように多種多様な献立を作成、調理、管理していくことが、日々、試行錯誤しながら繰り返されていますが、これからも患者さんに喜んでいただける美味しい食事作りを大切に守っていきたいと考えています。

リハビリを拡大してきて、 いま感じていること

リハビリテーション科 科長 森 陽介



約20年前、現在の健診室で産声を上げたリハビリテーション科は、当初4名でのスタートでした。この間、新館増築に伴いリハビリテーション室は本館2Fへ移転、その後は「じんクリニック」「佐貫クリニック」開設、昨年10月には「木更津クリニック」新築移転に伴い、4Fに通所リハビリテーションを開設し、訪問リハビリも含め現在では5か所の勤務地、47名(理学/作業療法士、言語聴覚士、介護員)のスタッフとなりました。通常の医療保険による入院・外来患者さんのリハビリ

テーション提供に加え、介護保険を利用した通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを行ない、当院の特徴でもある透析医療においても透析中の運動療法を行ない、活躍の場がどんどん増えています。

今後も当院のリハビリテーション科はまだまだ展開の余地があると考え、スタッフ一同力を合わせて多くの患者さんを元気にできるよう頑張っていきたいと考えています。

Annive

10
記

これまで
これから

look back on

臨床検査科が拡大してきて、 いま感じていること

臨床検査科 科長 平野 繁治



臨床検査科は、検体検査部門と生理検査部門に分かれています。30年程前は検査技師7名が検査業務に従事していました。生理検査は超音波装置1台、心電図、肺機能、眼底の検査だけであり、採血業務等も行っていませんでした。

現在は検査技師17名、准看護師1名、事務員1名となり、超音波装置は3台、脈波や脳波、神経伝導速度、皮膚灌流圧測定、血管内皮機能検査、生理検査システムの導入など臨床側の要望に応えるべく検査業務の拡大を図ってきました。

検体検査部門も外来患者さんの採血業務や検体システムの導入によるペーパーレス化、生化学検査に

おいては、院内で1時間以内に提供可能かつ有用な検査項目を増やすだけでなく、免疫検査機器や輸血検査機器、一般検査機器の導入など臨床に貢献すべく検査項目の拡充を図っています。

夜間呼び出しや待機病院における当直業務にも対応し、地域医療に貢献すべく迅速で正確な検査情報を臨床に提供するよう努力をしています。



臨床検査科では、迅速で正確な検査情報をお届けしています

頭の体操・脳活コーナー

頭の体操や気分展開に、ぜひ挑戦してみてください。

サイコロ暗算

例のように、サイコロの「裏の数」で計算してください。サイコロは裏と表を合わせると 7 になるので、表が「1」なら裏は「6」になります。メモを取らずに暗算で挑戦しましょう。

例) $\begin{array}{|c|} \hline \bullet \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \bullet \bullet \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline 8 \\ \hline \end{array}$ (例)
裏は 5 裏は 3 $5+3=8$

① $\begin{array}{|c|} \hline \bullet \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \bullet \bullet \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \bullet \bullet \bullet \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{答え} \\ \hline \end{array}$

② $\begin{array}{|c|} \hline \bullet \\ \hline \end{array} \div \begin{array}{|c|} \hline \bullet \bullet \bullet \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \bullet \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{答え} \\ \hline \end{array}$

③ $\begin{array}{|c|} \hline \bullet \bullet \bullet \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \bullet \bullet \bullet \\ \hline \end{array} \div \begin{array}{|c|} \hline \bullet \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{答え} \\ \hline \end{array}$

※正解は下にあります。

膝や腰が痛いときに考えられること

● 患者さんからの質問コーナー ●

整形外科医師 平野 貴大

1. 筋肉や靭帯の過負荷・過度の運動や不適切な姿勢による筋肉や靭帯の負担があります。
2. 関節炎・膝や腰の関節に炎症が起こることで、痛みが生じることがあります。例としては、変形性関節症やリウマチ性関節炎があります。
3. 椎間板ヘルニア・腰の椎間板が突出し、腰痛が生じることがあります。
4. 姿勢の問題・長時間の座りっぱなしや不適切な姿勢が、膝や腰に負担をかけることがあります。
5. 外傷や怪我・転倒や事故による膝や腰の外傷があります。
6. 骨粗鬆症・骨の密度が低くなり、骨が脆くなることで痛みや骨折が生じることがあります。

痛みが続く場合や強い痛みがある場合は、ぜひ受診下さい。特に変形性関節症や骨折の怪我では、人工関節の手術や骨折を固定することなどでその痛みが良くなるかもしれません。

投書 皆さんの声について

事務長 宮本 弘幸

当法人では、皆さんからご意見、ご要望をお寄せいただくため、各施設内に投書箱「皆さんの声」を設置しています。そのご意見等の中から、多数いただいた一部につきましてご紹介させていただきます。

今後も、皆さんからいただいたご意見をもとに改善を図り、患者サービスの向上に努めてまいります。

【駐車場について】

駐車場がすべいっぱいになり困っています。

駐車場のご利用に関して、ご迷惑をお掛けしておりますが、病院隣に患者さん専用駐車場(50台)を増設いたしましたので、当院へお越しの際はご利用ください。

【公衆電話について】

公衆電話を使おうとしたら撤去されていた。とても不便なため、設置してほしい。

携帯電話の普及に伴い、NTTにより公衆電話が撤去となり、ご迷惑をお掛けしておりましたが、1階受付横に公衆電話(ピンク電話)を設置いたしましたので、ご利用ください。

【乗降場所の屋根について】

中庭車寄せから玄関まで、屋根をかけてほしい。

ご不便をお掛けしております。現在、屋根の設置に向けて行政各所と相談を進めております。もうしばらくご不便をお掛けいたしますが、ご理解いただきますようお願いいたします。



患者さん専用 駐車場 50台増設

玄々堂君津病院 各お問い合わせ番号 月曜日～土曜日(祝日は除く)

玄々堂君津病院
0439-52-2366
代表

外来診療予約
0439-52-7068
診療予約・予約変更
9:00～16:00

地域連携室
0439-52-2457
医療機関からの患者さんご紹介
9:00～17:00

玄々堂木更津クリニック
0438-53-7807
代表



玄々堂グループ広報誌

げんげんどう

第100号 2024年10月24日発行

発行者: 玄々堂君津病院
発行責任者: 院長 池田重雄
企画・編集: 新聞委員会

医療法人社団 新都市医療研究会「君津」会

玄々堂君津病院

〒299-1144 千葉県君津市東坂田4-7-20

電話 0439-52-2366(代表)

URL <http://www.gengendo.jp>

